

三二七八番

赤駒あかこまを 廐うまやに立たて 黒駒くろこまを 廐うまやに立たてて それ
 を飼かひ 我わが行ゆくごとく 思おもひ妻つま 心こころに乗のりて
 高山たかやまの 峰みねのたをりに 射い目め立たてて 鹿猪しし待まつご
 とく 床とこし敷しきて 我あが待まつ君きみを 犬いぬな吠ほえそね

反歌はんか

三二七九番

葦垣あしかきの 末搔すゑかき別わけて 君きみ越こゆと 人ひとにな告つげそ
 言ことはたな知しれ